

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3272200548		
法人名	株式会社 ケイテン		
事業所名	グループホーム さち		
所在地	島根県隠岐の島町栄町572 (電話) 08512-2-0121		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】 (20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤7人, 非常勤11人, 常勤換算9, 3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有 (円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月31日現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	7名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	1名
年齢	平均 84, 8歳	最低 74歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	半田内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症への真のケアの在り方を問いながら、「地域らしさ」をサービスに活かそうと運営者、職員共に奮闘しているホームである。職員は利用者が家庭のように生活することを支援し、利用者は花の世話をしたり畑仕事をしたり、民謡を歌い趣味を楽しみ、自分のペースで生活している。オムツをしない支援や、階段の上り下りを続ける中で状態の改善した利用者が多い。ホームの前は通学路で子ども達と挨拶を交し合い、子供SOSの家にも指定されていて地域の中での役割も定着している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「重度化・終末期に対する家族との話し合い」「家族への報告の工夫」「改善計画シートの作成」など積極的に取り組まれ改善されている。「運営推進会議の活用」「災害対策」は継続課題になっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で項目に沿って話し合い評価を行った。課題や取り組みたい内容について活発に意見交換を行い、全員で改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の状況、サービス提供の状況などを報告し意見交換を行っている。出席者から地域のボランティアの情報や行事の反省などが出されサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時や運営推進会議、意見箱などで意見を聞いている。第三者委員も設置し意見を言いやすいように工夫しているが、家族からは意見や不満はあまり聞かれない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し清掃活動を行ったりホーム行事を通し地域の人と交流している。ボランティアや保育園児、近隣の人との交流も多くなり、子供SOSの家に指定されていて地域の中での役割も広がっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針の中に利用者がなじみの関係の中で暮らすことを掲げ、理念の「慈愛に満ちた安堵の暮らし」と一体化させて事業所の考えとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念・基本方針を周知し、会議などでも確認しあっている。職員は利用者を大切に思い、理念を意識しながら日々のケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に参加したり、納涼祭などのホーム行事、散歩や買い物、保育園児、ボランティアとの交流などを通し連携に努めている。子供SOSの家としての役割も持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員でミーティングや会議などで項目に沿って評価を行い、課題を共有しあっている。外部評価の課題については改善計画シートを作成し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事などを報告し、出席者からサービスへの要望を聞いたり助言をもらっている。行事の反省や地域のボランティアの情報も話されケアに活かしている。	○	多方面からの出席者の参加も検討し、さらに活発な会議になることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の介護予防教室、検診などに積極的に参加し情報交換を行い、共にサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に報告し、受診時や必要時には電話で連絡している。「ホーム便り」や、家族によっては写真入りの近況報告を送り訪問が増えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や運営推進会議、意見箱などで意見や要望を聞いたり、第三者委員を設置し意見が言いやすいようにしている。現在は家族からは意見・不満などはあまり聞かれない。	○	意見の引き出しに努められているが、さらに、家族同士が交流し意見を出しあうような工夫をお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員には利用者と一緒に過ごす時間を多く取り一ヶ月は日勤にしている。業務マニュアルがあり、生活援助の仕方や勤務帯ごとの業務、指針を徹底させている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成に力を入れ職員は積極的に研修に参加している。研修マニュアルもきちんと作成され活用されている。夜勤専門職員も自主的に研修に参加し、内容を職員に伝えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	数ヶ所の同業者と交流し、便りの交換や相互訪問、情報交換などを行っている。地域の研究会のグループホーム部会に加入しネットワーク作りに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅や入所先の施設を訪問し、本人の意向を必ず確認している。その後見学してもらい利用者と交流したりホームの雰囲気を感じてもらって納得した利用となっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「心で関わるのが一番のケア」と考えていて、利用者に向き合い家族のような気持で寄り添っている。一緒に生活する中で料理の味付けや伝統食の作り方など教わる事が多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は話しかけを多くし、利用者の話、表情、声の大きさ、顔色などから思いの把握に努めている。家族や面会者から情報を得ることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でケア会議を開き、本人や家族の希望を反映させた計画を立てている。利用者に必要な支援が具体的にあげられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリング、ヒヤリ・ハットの検討とあわせ利用者の状態に合わせて計画の見直しをしている。変更したところは朱書きし全職員に徹底させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格のある職員が多く、医療連携体制加算をとり早期退院の支援をしたり、選挙や同窓会への出席など利用者の希望に柔軟に対応している。短期入所利用もできる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に沿って、入居前からのかかりつけ医や協力医療機関の医師により安心して医療を受けることができる。基本検診も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員全員が重度化・終末期に対するホームの方針を理解し看取りの事例がある。マニュアルも作成されている。ホームとしての対応の限界も含め家族との話し合いも進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	食事や移動など、重度の利用者に対しては他の人にわからないように早めに誘導し、尊厳を傷つけない配慮をしている。言葉かけについて職員同士注意しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなテレビを見る、思いついた時に畑に行く、食事の残り物をタッパーに入れて部屋に持ち帰るなど、利用者の希望やペースを尊重した対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、片付けなど、一緒に行い利用者の力を活かしている。お椀のにおいの嫌な人には容器を変え、苦手なもののある人にはメニューを変えるなど配慮している。	○	事業所の特性を考慮し、職員も利用者と同じ食事を食べられるように運営者の協力をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で曜日を決めているが、畑仕事の後などにも声をかけ希望に沿った支援をしている。毎日入浴する人もいる。入浴を嫌がる人にも毎日声をかけている。足浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花、洗濯物たたみ、盆ふき、新聞取り、ゴミ袋折り、畑仕事など、生活の中に利用者の力を発揮できる場面がある。花作りや民謡を歌うなど楽しみ事も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2ユニットのうち1ユニットはドライブに出かけることが多く他のユニットはテラスで花作りを楽しんだり畑に行くことが多い。買い物、図書館行き、散歩など日常的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外はかぎをかけていない。職員同士が声をかけあいながら利用者の動向を見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急救命法の講習に参加し、消火訓練や避難訓練を実施している。利用者も避難訓練に備え階段を下りる練習をしている。近いうちに地域住民との合同の訓練をと考えている。	○	地域との合同訓練が考えられているので是非実現していただきたい。備蓄については本社対応とされているが、ホームとしてもさらに検討を重ねていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を把握し記録している。水分摂取には気を配りこまめに促している。利用者の状態に応じて形態や量を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者の作品、生活ぶりを伝える写真などを飾り居心地のいい工夫をしている。テーブルやソファ、畳のスペースの配置もよく落ち着いた雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品をそろえ、孫の写真や自分で作った手芸品を飾って自分らしい居室づくりをしている。信仰する教組の写真を飾り毎日花や水替えをしている人もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。